

第6回学魂祭開催・運営における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

【開催前の感染予防対策】

- 1 当日スタッフおよびイベント参加者(出演・出店者・運営・ボランティア含む)全員の検温を必ず行い、体調を把握した上での運営を行う。
- 2 風邪のような症状がある者が来場を控える旨をフライヤー等に記載し、周知する。
- 3 イベント参加者のマスク着用を事前に促し、義務付ける。
- 4 2週間以内に海外(感染流行国)又は国内の感染流行地域(クラスター等)へ旅行・出張した者には、参加を控えていただくよう事前に周知することを検討する。
- 5 イベント参加者の名簿を作成し、氏名・学校名・学部・学年・住所・電話番号等の把握を徹底する。
- 6 イベント参加者に、厚生労働省から提供されている接触確認アプリ(COCOA)などのインストールを促す。

【会場内での感染予防対策】

- 1 入退場口を1箇所制限し、入場時の検温・手指のアルコール消毒を徹底する。また、入場時に来場者の氏名・居住地域・連絡先を紙、またはgoogleフォームに記入してもらい、来場者名簿を作成する。
 - 2 1日の入場人数上限を600人とし入退場口にてカウントを行い、上限を超える場合は入場を断る。
 - 3 マスクの着用を義務付け、着用確認及び咳エチケットの励行を入退場口にて呼びかける。
 - 4 会場及び待合場所等における3つの密(密閉・密集・密接)を徹底し、回避する。
 - 5 ステージ出演者は、できる限り一定の間隔を保ちパフォーマンスを行うよう留意する。
 - 6 勾当台公園 野外音楽堂の客席はベンチ型であるため、来場者が密接にならないようスタッフは常に誘導できる客席付近に待機し、またスタッフは常に会場内を巡回する。
 - 7 通路間のスペースの考慮や、ブース毎に障壁を作る等のレイアウト上の工夫をする。
 - 8 スタッフは会場内のこまめな消毒(椅子やテーブル等)を行う。
- ⑩→会場内には感染予防を促すパネルを設置する
- ・入場口にはセルフチェックリストのパネルを設置し、感染の疑いがある市民や体調に異変が生じている市民の入場を規制する。

- ・来場者と来園者の仕切りをつけることで、必要以上に接触しないような動線を確保しつつ来園者の動線に配慮した会場レイアウトを設定。また来場者の入退場の導線確保することで不特定多数の来場を防ぐとともに、入場時の検温・手指のアルコール消毒を円滑に行う。
- ・飲食可能スペース・ブースの受付では席の間隔の確保や透明フィルムを設置することで来場者同士の飛沫感染対策を行う
- ・飲食ブースの調理場所と受付場所の間隔を1m以上開けることでブース内のスタッフ同士による感染を防ぐ

- ・会場内には一定間隔にアルコール消毒液を設置する。

- ・退場時のアンケート実施により、今後のイベントの感染対策に求めることやフィードバック等を吸い上げ、

当マニュアルは、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドラインを基に作成したものである。また、勾当台公園 いこいの広場を利用することを想定した感染症対策マニュアルとなっている。